

世界食料デーに

受け継がれるトロフィー

100%オーガニック 王国への道のり

「GNP（国民総生産）」よりも「GNH（国民総幸福量）」を掲げている事で有名なブータン王国は、GNHを豊かにするための政策の一つとして、2025年までに国内農業を100%有機農業にすることを目指しています。有機農業の実施割合が10%を超えている国が世界中でほとんどない現状を考えると、理想を目標として掲げている国と言えるかもしれません。それが物質的な豊かさよりも、本当の幸せとは何かを探索し続けているこの国らしい政策とも言えます。

ブータン王国は、チベットとインドに挟まれたヒマラヤ山脈に位置する国で、標高1200mを超える地

域が約85%で、その内約45%が標高3000m以上にあるため、有機物生産量の少ない国です。また、平地が極めて少ないため、棚田や段々畑が多く、トンネルが無いので山に沿った道や川などの蛇行が多い風景は、国全体が一つの芸術作品のようで、龍の国と呼ぶにふさわしい景観をなしています。

有機物資源が限られ、化学肥料の使用量が近年急増しているこの国で有機農業を行うことは、有機物資源が豊富にある日本より何倍もの険しい道のりです。

世界食料デーの表彰式

今回は、その有機農業普及の一環として行われている世界食料デー（国連が制定した食料問題を考える全世界共通の日、10月16日）に行われた

SAP（学校農業プログラム）の表彰式を紹介します。これはFAO（国連食糧農業機関）がスポンサーとして行うブータン国内最大級のイベントであり、全国版のニュースおよび新聞でも取り上げられています。

ブータンには、APNAN（アジア太平洋自然農業ネットワーク）を通して、1993年に自然農法とEM技術が農業省に紹介され、その後SAPが窓口となつて、自然農法の輪が広がっています。農業省の管轄にあるSAPは、学校の課外活動として、生徒が自主的に有機栽培に取り組む活動を支援しているもので、ブータン国内にある551校の内、約190校が参加し、約100校の学校ではEMが活用されています。そして課外活動の内容が最も優秀だった学校が世界食料デーに表彰さ

普及部国際課



高い山々に囲まれ、ほとんどの農地が棚田や段々畑になっているブータンの風景

れています。

世界食料デーの 歴史を刻むトロフィー

SAPの表彰式は、2013年10月16日にブータン最北部のガサ県のビジョン学校で執り行われました。このガサ県はすでに有機農業奨励地区に指定されており、同県内で生産される農産物はすべて有機農産物とのことでした。表彰式ではいろいろな催しが続ぎ、最後に各部門の最優秀校が表彰されました。

LESS部門の最優秀校に対してAPNANより贈呈されたトロフィー



世界食料デーに行われたSAPの表彰式



各部門の最優秀校の皆さん



APNAN 賞を受賞し、12年の歴史を刻むヒガトロフィーを手にする Udzromg LSS 学校のカラマ先生



ビジョン学校の生徒たちによる踊り

奨励地区であるガサ県ではすべて有機農産物になっている

SAPの表彰式のプログラム

- ① 歓迎挨拶 (校長)
- ② RNR 研究評議会 (CoRRB) 代表挨拶 (Tashi Samdup 博士)
- ③ ガサ県知事挨拶 (Dasho Sonam Jigme 氏)
- ④ ビジョン地区の有機農産物、加工品の展示販売
- ⑤ ビジョン学校の生徒たちによる催し物 (行進、踊り、ディベート「地球温暖化は農業に影響するか否か」、農家クイズ、劇等)
- ⑥ SAP各部門の最優秀校の表彰式

各部門の最優秀校

WFP賞＝P S部門 (Primary School 6年制学校)
チュカ県 Chungkha PS

APNAN賞＝L S S部門 (Lower Secondary School 8年制学校)
タシガン県 Udzromg LSS

FAO賞＝H S S部門 (Higher Secondary School 12年制学校)
サムチェ県 Tendruk HSS

※ WFP＝国連世界食糧計画

は、このイベントの記念すべき第1回の時に、APNAN会長である比嘉照夫氏 (琉球大学名誉教授、現名桜大学教授、当センター評議員) から贈呈されたもので、「ヒガトロフィー」と呼ばれています。このヒガトロフィーはタイで作成されたもので、毎年最優秀校に受け継がれ、12年間の最優秀校の名が刻まれた権威のあるトロフィーとなっています。

今回このトロフィーを手にした Udzromg LSS 学校の SAP 担当者であるカラマ先生は、ブータンの西端の県であるタシガン県から、式典に参加するために丸2日間車で移動してきました。今回の表彰を受けられたことに非常に感動し、その感動をゾンカ語 (ブータンの公用語) で発表してくれました。このどこまでも続く山々を超えた所で、大自然の中、生徒たちと共に自然農法に一生懸命取り組まれた姿を想像すると、この国の大切な未来のために、自らの手で土を耕すことの大切さを教えられたような気持ちになり、言葉を越えて感動が伝わってくるようでした。

ブータンに広がる 自然農法とEM技術

ブータンでは、SAPが中心となつて自然農法とEM技術を多くの学校の生徒たちに伝え、種をまき続けてきました。それを牽引してきたヒガトロフィーも12歳を迎え、今では卒業した子供たちも大きくなり、自然農法とEM技術は一般からの需要も高まってきています。そこで、今年から一般の方たちにもEMを提

供できるような新しいシステムが導入されました。貧困な農家の方々にも使ってもらえるように、一般の方への無償提供が始まったのです。

7000mを超える山々もあるこの厳しい自然環境の中で、100%オーガニックの国づくりに果敢に挑戦しているブータン王国。自然農法の理念とEM技術がその手助けとなるよう、引き続きブータン政府と連携して、世界一健康で幸せな国づくりが実現できるよう、一步一步踏みしめて共に歩んでいきたいと思っています。

(佐野 雄次郎)